

氏名	須永 康代	部署	理学療法学科	職名	准教授
研究分野	生体運動学, ウィメンズヘルス理学療法学				
学位	博士（保健学）				
学歴	2004年埼玉県立大学保健医療福祉学部理学療法学科卒業、2011年広島大学大学院保健学研究科心身機能生活制御科学講座博士課程前期修了、2018年広島大学大学院保健学研究科心身機能生活制御科学講座博士課程後期修了				
経歴	2006年埼玉県立大学保健医療福祉学部理学療法学科助手、2010年埼玉県立大学保健医療福祉学部理学療法学科助教、2020年埼玉県立大学保健医療福祉学部理学療法学科准教授				
所属学会（役職）	日本ウィメンズヘルス・メンズヘルス理学療法学会（総務担当理事）、埼玉県理学療法士会 ウィメンズヘルス推進委員会（副委員長）、埼玉県立大学保健医療福祉科学学会（学術集会企画運営委員、理事）、専門リハビリテーション研究会（運営審議員）、日本母性衛生学会、臨床歩行分析研究会、日本女性骨盤底医学会				

【2025年度実績】

1. 研究業績							
(1) 著作(著書及びその他の著作物)							
	著作の名称	単・共	ISBN	発行所、全ページ数		著者、編者名	発行等年月
1	該当なし						
(2) 論文							
	論文の名称	単・共	査読	IF対象誌	雑誌名、巻（号）、開始-終了ページ	著者、編者名	発表等年月
1	ビニルシクロヘキサセンジオキシド投与マウスモデルを用いた骨粗鬆症への運動効果	共著	あり		ウィメンズヘルス・メンズヘルス理学療法学, 3, 1-8	眞下葵, 押田竜河, 川端空, 高須千晴, 二瓶孝太, 曾根賢太, 岡優一郎, 須永康代, 金村尚彦, 村田健児	2025.12
(3) 学会発表							
	学会発表の演題	単・共	学会名、開催都市		発表者（発表者は○印）		発表等年月
1	ウィメンズヘルス・メンズヘルス理学療法学の教育と実践 現在の取り組みと今後の課題―産前産後領域における理学療法教育―	単独	第14回日本理学療法教育学会学術大会, 豊島区		○須永康代		2026.1
2	妊婦の腰背部痛に対する理学療法介入の効果検証―多機関共同研究―	共同	第11回日本ウィメンズヘルス・メンズヘルス理学療法学会学術大会, 豊中市		○須永康代, 布施陽子, 山崎愛美, 佐々木聡子, 平元奈津子, 漆川沙弥香, 森明子		2025.12
3	歩行評価AIによる妊婦歩行の逸脱マッピング：健常成人との比較	共同	第11回日本ウィメンズヘルス・メンズヘルス理学療法学会学術大会, 豊中市		○川端陸, 須永康代, 安琪, 下田真吾		2025.12
4	切迫早産の妊婦に対する理学療法介入および身体活動に関するスコアリングレビュー	共同	第11回日本ウィメンズヘルス・メンズヘルス理学療法学会学術大会, 豊中市		○小管倅子, 須永康代		2025.12
5	The impact of physical therapy intervention during pregnancy on delivery	共同	World Physiotherapy Congress2025, Tokyo		○Yoko Fuse, Yasuyo Sunaga, Yumiko Sugimoto, Yuki Takahashi		2025. 5
(4) その他							
	名称	単・共	発表場所等		発表者（発表者は○印）		発表等年月
1	バイオメカニクスの視点でみる抱っこ	単著	第2回産前産後ヘルスケアシンポジウム, 横浜市		○須永康代		2026.3
2. 競争的資金等の研究							
	競争的資金等の名称	研究名			研究代表者・研究分担者の別		研究期間
1	科研費基盤（C）	産後の姿勢制御因子の動態に関する腹筋群における質的・機能的変化の実態解明			研究代表者		2023.4-2026.3
2	埼玉県立大学奨励研究（A）	女性の骨盤底機能障害における実態解明と機能・QOL向上のための保存的治療効果の検証			研究代表者		2025.4-2026.3

3	日本理学療法学会連合 診療報酬改定等に資するエビデンス構築研究	妊産婦の腰背部痛・骨盤帯痛に対する理学療法の効果検証	研究代表者（日本ウィメンズヘルス・メンズヘルス理学療法学会 担当者）	2024.6-2026.3
3. 教育業績				
(1) 講義				
	講義の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	発達障害理学療法学	○	3	運動発達や動作の発達について画像や動画を活用して講義を行った。
2	神経障害理学療法学	○	3	神経疾患とその理学療法について画像や動画を活用して講義を行った。
3	理学療法応用技術学B（予防・産業）	○	8	産業保健における健康問題について、グループワークを交えて講義を行った。
4	ウィメンズヘルス理学療法学	○	8	女性のライフサイクルにおける変化と特徴的な疾患についての講義と理学療法評価・治療に関する実技を行った。さらに文献抄読を通して理解を深めた。
5	障害予防学特論		4	女性における機能障害評価とその予防について、最近の研究報告をもとに講義を行った。
6	理学療法症候障害論		1	女性特有の疾患・障害に関わる評価と理学療法について、最新の知見を交えて講義を行った。
7	リハビリテーション教育学Ⅱ		1	臨床教育実習前後における教育評価とその目的について、CBTやOSCEの近年の動向を踏まえた講義を行った。
(2) 演習				
	演習の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	理学療法研究法演習		0.5	ウィメンズヘルス理学療法領域の研究について紹介し、最新の情報を提供できるよう工夫した。
2	理学療法セミナー（OSCE1）		8	臨床教育実習に向けた問診や医療面接技術を習得できるよう、客観的臨床能力試験（OSCE）における評価・フィードバックを行った。
3	理学療法セミナー（OSCE2）		8	臨床教育実習に向けた理学療法評価やプログラム立案・実施について習得できるよう、客観的臨床能力試験（OSCE）における評価・フィードバックを行った。
4	理学療法特別演習		0.5	人間発達学・小児理学療法分野における国家試験の過去の出題傾向をふまえた演習を行い、国家試験に向けたサポートを行った。
5	理学療法症候障害演習		2	女性特有の疾患・障害に関わる評価と理学療法について、研究論文の検索とレビューを通して理解を深めた。
(3) 実習				
	実習の名称	科目責任者	学外実習：期間 学内実習：コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	運動学実習		20	歩行分析、筋活動について、実習を通して手法を学び、生じた結果に対する考察により理解を深めるよう指導を行った。
2	発達障害理学療法学実習		5	正常発達、発達障害児における理学療法評価およびアプローチの実践について授業を行い、理解を深めた。
3	神経障害理学療法学実習		4	脊髄損傷の理学療法について、動画を用いて概説しながら実習を行い、理解を深めた。
4	臨床教育実習Ⅰ		2026.2.16- 2026.3.1	2年次生を対象に2週間の検査・測定実習を実施した。実習中は実習指導者との状況確認を行い、実習後は学生の報告をもとにフィードバックを行った。
5	臨床教育実習Ⅱ		2025.9.22- 2025.10.27	3年次生を対象に5週間の評価実習を実施した。実習中は実習指導者との情報共有を行い、実習後は報告会およびレポートを通しての指導、個別フィードバックを行った。
6	臨床教育実習Ⅲ		2025.4.14- 2025.6.8	4年次生を対象に8週間の臨床実習を実施した。実習中は実習指導者との情報共有を行い、実習後は報告会およびレポートを通しての指導、個別フィードバックを行った。

7	臨床教育実習Ⅳ		2025.6.23- 2025.7.27	4年次生を対象に5週間の地域/特定領域実習を実施した。実習中は実習指導者との情報共有を行い、実習後は報告会およびレポートを通しての指導、個別フィードバックを行った。	
8	IPW実習		2025.9.29- 2025.10.2	4年次全学学生5名・埼玉医科大学学生1名の計6名とともに3日間の実習に同行し、対象者や病院スタッフへのインタビューやグループディスカッションが円滑に行えるよう支援を行った。最終日4日目には学内での報告会を通して指導・フィードバックを行った。	
(4) 論文指導					
	対象		期間	主指導・副指導の別及び指導人数	
1	卒業論文		2025.4-2025.12	主指導 3名	副指導 0名
2	博士論文		2025.4-2026.3	主指導（指導教員） 0名	副指導（指導補助教員） 2名
(5) その他					
	名称		期間	概要（教育内容・方法等において工夫した点）	
1	ゼミ担当		2025.4-2026.3	1～4年次生を対象にゼミ活動を通して学生間の交流を図ることができた。3・4年次のゼミ生には、卒業研究に向けた研究指導を行った。	
2	東京有明医療大学 非常勤講師		2025.5 2025.10-2025.11	東京有明医療大学の非常勤講師としてリハビリテーション医学Ⅰを2コマ、リハビリテーション医学Ⅱを2コマ、リハビリテーション医学実習を2コマ担当した。	
3	早稲田医療技術専門学校 非常勤講師		2025.6	早稲田医療技術専門学校の健康教育技術論を非常勤講師として2コマ担当した。	
4	春日部市立看護専門学校 非常勤講師		2025.7	春日部市立看護専門学校の解剖生理学Ⅱを非常勤講師として4コマ担当した。	
4. 社会貢献活動					
(1) 講演会、研修会、公開講座等の講師					
	講演会、研修会、公開講座等の名称		主催	講演、研修、公開講座等のテーマ	開催年月
1	第2回ウロギネ研究会		ウロギネ研究会	骨盤底筋体操と姿勢・動作の関連	2026.2
2	タムスさくら病院 勉強会		タムスさくら病院リハビリテーション科	尿失禁	2025.8、9
3	埼玉県立大学 理学療法学科臨床育実習受け入れ施設対象講習会		埼玉県立大学理学療法学科	ウィメンズヘルス理学療法の基礎と実践	2025.8
4	オレンジティ定例会		認定NPO法人オレンジティ	がん治療後の尿漏れ	2025.6
5	地域のヘルスケア向上施策「りそなHEALTH BASE」		埼玉りそな銀行せんげん台支店	女性のための骨盤ケア講座	2025.11, 2026.3
(2) 国、自治体、学術団体等における委員等					
	国、自治体、学術団体等の名称			委員等の名称	任期
1	産前産後の母体に対するケアを通じて包括的に女性支援を考える議員連盟			ミーティングメンバー	2025.4-現在
2	日本ウィメンズヘルス・メンズヘルス理学療法学会			一般社団法人日本理学療法学会連合総務委員会委員，学会総務担当理事	2021.6-現在
3	日本ウィメンズヘルス・メンズヘルス理学療法学会			第11回日本ウィメンズヘルス・メンズヘルス理学療法学会学術大会 副学術大会長	2024.4-2026.2
4	埼玉県理学療法士会			ウィメンズヘルス推進委員会 副委員長	2023.4-現在
5	日本母性衛生学会			査読員	2019.4-現在
6	埼玉県立大学保健医療福祉科学学会			理事	2021.4-現在
7	埼玉県立大学保健医療福祉科学学会			第16回学術集会企画運営委員	2025.4-2026.3
8	専門リハビリテーション研究会			運営審議員	2022.4-現在
9	草加市男女共同参画専門委員			委員	2023.2-現在
10	社会福祉法人みんなぎ			評議員	2020.4-現在

(3) ジャーナリズムでの発言			
	メディア等の名称	内容	年月
1	埼玉新聞	埼玉りそな銀行せんげん台「HEALTH BASE」に関するコメント	2026.3
(4) その他			
	項目	相手方等	内容 期間
1	産業支援	埼玉県産業振興公社	研究シーズマッチング会 オンデマンド講演 2025.12
2	産業支援	株式会社ピックルスホールディングス	工場見学, 特定講座に向けた打ち合わせ 2025.11-2026.3
5. 学内運営			
	項目	内容	期間
1	全学的委員会及びセンター業務等	学部教務委員会 委員	2025.4-2026.3
2	全学的委員会及びセンター業務等	大学院 学生支援会委員	2025.4-2026.3
3	大学広報活動	オープンキャンパス	2025.6, 8
4	学生支援	理学療法学科実習教育検討部会 臨床実習指導者講習会担当	2025.4-2026.3
5	学生支援	理学療法学科学生支援部会 学生修学支援担当	2025.4-2026.3
6. 受賞 (研究、教育、社会貢献活動に関するもの)			
	受賞名	主催	受賞年月
1	該当なし		
7. 特許の取得			
	特許名	特許番号	登録年月
1	該当なし		
8. 特記事項			
1	該当なし		